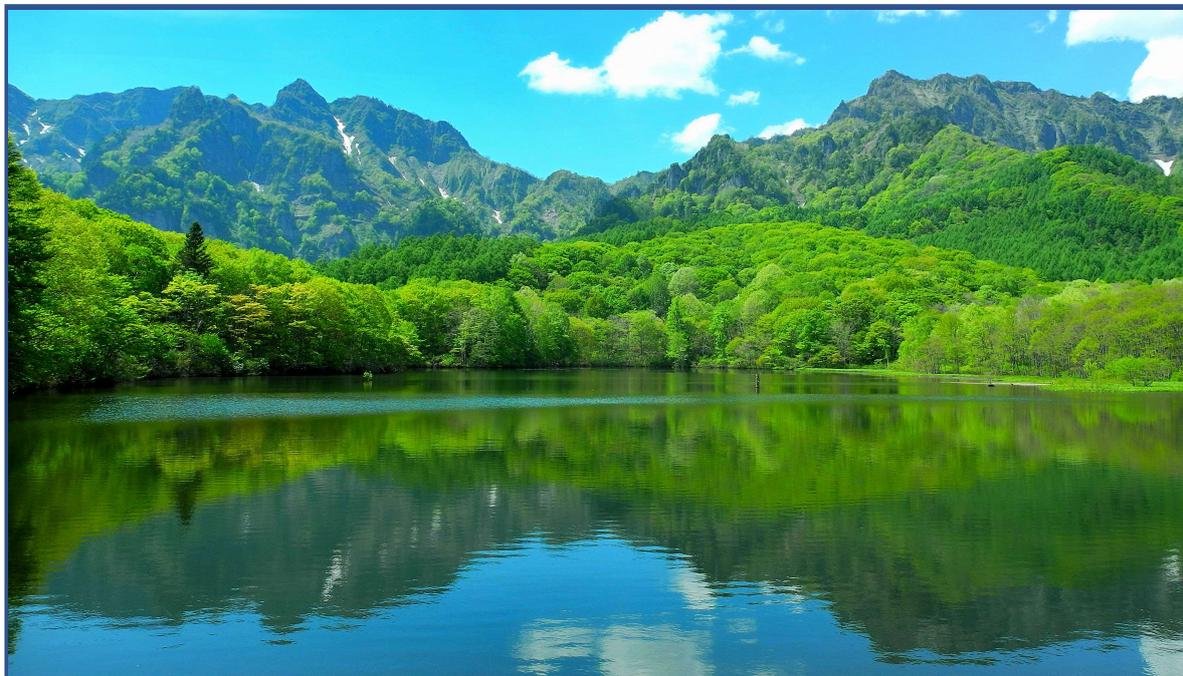




神戸市シルバーカレッジ情報誌 2023年5月 第216号



「新緑の彩り」 撮影地「戸隠高原 鏡池」 KSC 写真クラブ 生環 28 期 日比 潤一

目次

02~03	入学式
04~05	新入生の入学感想
06~07	卒業式
08~09	歓送交流会
10~11	サークルだより
12	グループわ だより ジョイフルクッキング
13	文芸サロン : 俳句・川柳・応募作品
14	トピックス : 施設利用委員会・ケナフで紙漉き
15	事務局だより 図書室だより 編集後記
16	Photo News : 歓送交流会・卒業式・入学式

情報誌編集委員会では、カレッジ内外の活動も含めて写真・記事の投稿をお待ちしています
「爽風」への情報提供・ご意見は、次のホームページ「[✉お問い合わせ](mailto:info@ksc-sofu.net)」からお寄せください
<https://ksc-sofu.net/> スマホからは右の QR コードを読み取ってアクセスできます



シルバーカレッジ 第30期生入学式

令和5年4月10日、神戸市シルバーカレッジ第30期生入学式が、カレッジホールにおいて行われました。本年度入学の学生313人が、緊張した面持ちで入場されました。3年以上も続いたコロナ禍もようやく落ち着き、この数年より華やいだ雰囲気の中、入学式は始まりました。

まず、前田学長から式辞をいただきました。お祝いの言葉とともに、今後の学園生活において重要だとお考えのことを、精神科医としてのご自分の経験を例にお話しくださいました。

【式辞】

神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔



30期生の皆さま、ご入学おめでとうございます。学長の前田です。

今年、当シルバーカレッジには313名の新しい学生が入学されました。

また、カレッジは、今年創立30周年を迎えます。平成5年10月にオープンし、第1期生を迎えました。以来30年、卒業生は1万人近くなろうとしています。

今年の入学生は先ほど紹介しましたように313名ですが、コロナが始まる以前は、2018年の25期生は401名でしたし、2019年の26期生は386名でした。しかしその後残念ながら、30期生を含め、入学者は少し減ってきております。コロナ禍のなか、仕方がないことなのかと、思っております。

入学されましたら、まず友達を見つけてください。たわいもない日常の会話を、気兼ねなくできる友人を。コロナ禍で民間会社では、在宅勤務というものが取り入れられています。週に1回出勤するとか、週に2回出勤するとか、あとは在宅ですね。在宅勤務をしますと、通勤の負担はなくなりますが、そこに一つの問題が生じてきます。出勤したときと比べて、同じ職場の同僚とちょっとした業務以外の会話ができないということです。その業務以外のたわいのない雑談やおしゃべりが、ストレスを緩和してくれるということがわかってきました。私の知っている職場で、休憩時間にリモート茶話会の時間を設けているところがあります。みんながパソコンの前で、お茶を飲みながら会話を楽しむというものです。私は産業医をしており、社員の面接をしています。リモート茶話会が無くなり出られないので、体調が悪くなったという方がおられました。それほどリモート茶話会が楽しみの一つとなっている、という話を聞いています。

また、ある社員さんは面接のたびに、「体調はいつも低空飛行です。いつ墜落するかわかりません。なんとか墜落せずに定年を迎えたいと考えて、働いています。」と話をされるのです。その方が、あるときから明るくなり、低空飛行ですという言葉を使わなくなってきました。「最近元氣そうに見えますが、なにかあったのですか？」と尋ねると、「職場に、新しい人が入って来られたのですが、その人とウマが合うのです。休憩時間に話をすると気持ちが軽くなって、明るい気分になります。」と説明されました。さらに、「できれば、定年後も再雇用してもらって、働こうかなと考えています。」と変わってきたのです。このようにたわいない会話、世間話は、非常に重要なのだということがわかります。これを英語で言うと、チャットあるいはチャティングと言います。最近ニュースでチャット GPT というものの話を聞きます。これは、質問すると文章で回答してくれるというAIを使ったサービスです。従来のサービスでは、質問すると関連するサイトを紹介してくれるのですが、チャット GPT は答を文章で返します。そしてそうやって会話を成り立たせられるのです。このチャットということが重要です。

シルバーカレッジに入学されて、たわいない世間話、チャットをできる、気の合う友人を見つけてほしいと思いますし、カレッジがそういう場であってほしいと思います。

その友人を見つけるコツは、相手の話を聞いてあげる。話をとりあえず肯定する。この二つです。ぜひ、たくさんの方を見つけていただきたいと、願っています。

皆さんの3年間で、有意義で満足のいく、実りあるカレッジライフになることを願って、私の式辞といたします。



【歓迎のことは】

在校生代表 音文 28 期 荒木 良一



30 期生の皆さん、ご入学おめでとうございます。私たちは入学した時からマスク生活でした。世間ではようやくマスクが解禁になり、少しずつ以前の生活に戻りつつあります。今年の全入学生のうち 4 分の 1 が再入学の方です。勉強が好きな方が多いのだな、と尊敬いたします。カレッジは高齢者の方が多いので、マスク着用・手洗い・消毒はまだ必要ですが、コロナもようやく 2 類から 5 類になるようなので、インフルエンザと同じ扱いになります。早く以前の賑わいを取り戻してもらいたいものです。マスク生活だとなかなか顔と名前が覚えられず、廊下で会っても通り過ぎてしまうことが多かったのですが、さすがに 2 年もたつと名札を見ずに名前がわかるようになりました。

シルバークレッジでの学園生活についてお話したいと思います。本日皆さんは入学されたのですが、入学されて間もなく、新入生の歓迎交流会が 5 月にあります。我々音文では入学してすぐその歓迎会に合唱で参加し、入学して初めて会う、ほとんど見ず知らずの人たちと、曲・指揮者・伴奏者を決め、練習もしなくてははいけません。入学してすぐこんな無理だと思いながらも、上級生やクラブの先輩に聞き、なんとか練習会場も確保し無事歓迎交流会に間に合わせて演奏できました。その中でいろいろトラブルや困りごとはありますが、みんな一緒に考えて頑張ることでクラスの結びつきが強くなり、これからいろんなことに挑戦しようという気持ちが出てくるのだと思います。

シルバークレッジでの学園生活についてお話したいと思います。本日皆さんは入学されたのですが、入学されて間もなく、新入生の歓迎交流会が 5 月にあります。我々音文では入学してすぐその歓迎会に合唱で参加し、入学して初めて会う、ほとんど見ず知らずの人たちと、曲・指揮者・伴奏者を決め、練習もしなくてははいけません。入学してすぐこんな無理だと思いながらも、上級生やクラブの先輩に聞き、なんとか練習会場も確保し無事歓迎交流会に間に合わせて演奏できました。その中でいろいろトラブルや困りごとはありますが、みんな一緒に考えて頑張ることでクラスの結びつきが強くなり、これからいろんなことに挑戦しようという気持ちが出てくるのだと思います。

カレッジでは歓迎交流会だけではなく学園祭やジョイラックデイといったイベントも季節ごとにあり、その企画から運営を学生がやります。そういったイベントに積極的に参加しいろいろな経験を積んでください。学生の時にできなくてもここではできます。失敗してもいいんです。うまくやろうなんて考えず、うまくいったら儲けものぐらいの気持ちで挑戦してください。

また、カレッジにはクラブ活動もたくさんあって、興味を持って入られる方も多いと思います。クラブ運営にもそれぞれの役割分担があります。そういった運営にも参加してください。

新たな仲間をつくりながら、本学のモットーである「再び学んで 他のために」という精神のもと、豊かなカレッジライフを送られることを祈念して挨拶の言葉とします。

【新入生代表あいさつ】

新入生代表 国際 30 期 原田 敬子



令和 5 年度シルバークレッジの入学式にあたり、ご挨拶申し上げます。

コロナ禍にあって、感染者は徐々に減少し遠ざかりつつありますが、人々の心に、不安が

残っている現状です。そのような中、本日神戸シルバークレッジの入学式開催に際し、関係者のなされたご努力に感謝申し上げます。

私は団塊の世代に誕生し、現在 74 歳になりました。兵庫県立こども病院で看護師として 34 年間働き、64 歳で定年退職いたしました。後、10 年間、診療所や老人施設で働きました。その間、通信教育佛教大学社会学部を卒業。癒しの研究会で、小児外科医の高柳和江先生と出会い、笑い療法士の資格を取りました。笑い療法というのは、笑いや笑顔のもつ明るい健康的な要素を、治癒力・回復力・予防力に応用しようという試みです。

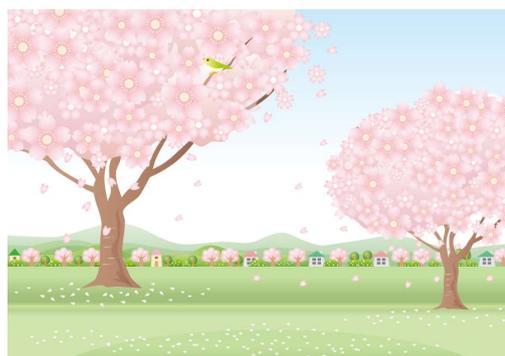
人生において、誰と出会えるか、何に出会うかで人生の豊かさが違ってきます。

かつて私は退職をしたのちに学んでみたいと願っていた、シルバークレッジに入学することができました。そして今まで出会うことのなかった多くの人々との出会いを迎えることができました。感動です。

老いても、まだまだ使われていない私の脳細胞を活性化するために、新たな学問の世界に入ることができ、心がポッカポカになり、夢と希望でいっぱいです。

いくら歳を重ねても、これから 3 年間を通して、学び・体験したことを地域社会で役立てることができそうです。皆さまとともに、活躍できる喜びを味わいたいと思います。

皆さま、よろしく願いいたします。



30期 新入生に入学の感想を聞きました

《健康ライフコース》

宮武 美恵子

今年の3月に30年間の福祉の仕事に幕をおろしました。以前から第二の人生は今まで培ってきた介護および福祉について、別の視点から学びを深めていきたいと考えていたので、迷うことなく健康ライフコースに入学しました。

カレッジのスローガンである「再び学んで 他のために」を目標に、楽しく学びながら自分の可能性を見出し、社会に還元して地域にも貢献できるよう努力していきます。今回出会った72人の仲間たちと一緒に、3年間を楽しく無理なく学び、豊かなカレッジ生活を送っていきます。

平澤 昇治

私は「健康ライフ」のコースは何を勉強するのか不安でした。入学された方の多くがカレッジでの学習がどのようなものか、先が見通せない状況だと思います。今までの人生で健康や生活に無頓着だった私は、ことさら不安です。

我々は「24時間働けますか」世代として頑張ってきたと思います。高齢者が人口の3割になりましたが、我々は夢もあり活動的な同志です。私も後期高齢者直前ですがカレッジで新たな自分を発見し、これまでに接したことのない世界で「元気印」の皆様とめぐり逢いたいです。今後3年間を充実した「健康ライフ」にしたいです。

《国際交流・協力コース》

宇都宮 建一

少し長過ぎた満70歳までの会社員生活の終りにあたり、残された人生をどのように過ごすべきかを考えたとき、自分は会社を介した社会観や活動が中心になっていたように思いました。そこで、フリーになってからはまず一個人として地域を中心とした社会に参画させていただき、次に個人の立場での世界観を身につけるべきと考え、他からの勧めもあってカレッジに入学させていただいた次第です。

今回は再入学となりますが、前回では経験できなかったことに挑戦し、知識の習得だけではなく学生間の交流や社会への参画に一層努めていきたいと思っています。

川端 広子

定年退職を機にカレッジに通いたいと思っていました。以前から趣味のテニス・ゴルフ・山登り・音楽・手芸に時間を取りたいという気持ちもあり、時間的に無理なのではと思う迷いの中での入学でした。カレッジの運営と熱意、素晴らしいキャンパス、先輩方のクラブ勧誘時のパワーに5～60年前のドキドキワクワクの気持ちで一杯です。「再び学んで 他のために」この言葉に心打たれ、今だからこそ何かのお役に立つことは励みになり、この上なく幸せなことです。

学びは楽しく、人とのコミュニケーションで充実のキャンパスライフを過ごしたいです。

《生活環境コース》

山田 実

両親がKSC卒業生です。現役時代の楽しそうな姿を見せられ、また勧められたこともあり入学しました。

私は長年電機業界などで「大量生産・消費」の世界にどっぷりとつかっていました。しかし今後は逆にゆっくり流れる時間の中、自然体で新しいことを学びたいと思い、生活環境コースを選んだ次第です。

これから3年間で自然環境等の授業や、人との交流の中で学ぶことができれば幸いです。また（幸か不幸か？）マンションの管理組合役員も仰せつかり、どうも地域交流、生活環境事項もあるようで何か活かせればと今思っています。

中村 雅子

主人が生環24期OBで、リタイア後ご近所さんに勧められ、暇つぶしにKSCへ入学しました。暇つぶしの割にはクラブとボランティアを3つ掛け持っていました。優しい担当事務局のお姉さんと仲良しクラスメイトに恵まれ、登校のたびにワイワイ楽しく過ごしていました。卒業した今でも垂水会とシニアクラブの役員をやり、クラスメイト達とは月一で集まり、親交を更に深め現在も楽しい暇つぶしを進行中です。

そんな姿を見せつけられ負けてなるものかと火が付きまして、私も3月リタイア即入学と至った次第です。もちろん迷うこと無く生環へ。今はワクワクしかありません。

《美術・工芸専攻》

前田 龍夫

3月に国際交流・協力コースを卒業し、再入学制度を利用して、今回美術・工芸専攻に入学することができました。美工を選んだ理由は、年齢を重ねても取組める絵画を趣味にしたいと考えたためです。美工では、水彩や油絵だけでなく、陶芸や版画などさまざまな創作活動ができ、更に趣味の幅を広げられればと期待しています。また、前回のカレッジ生活ではコロナ禍による活動の制約がありましたが状況も改善しており、美工のメンバーと交流を深めて、楽しく充実したカレッジ生活にしたいと思っています。



宮本 順子

仕事を卒業し寂しく感じていたところ、シルバーカレッジ卒業生から「お友達もでき楽しかったよ」と勧められたのが入学動機です。以前より陶芸に興味があり全く経験はないので

すが、新しいことに挑戦してみようと美工を選択。ところが補欠一位。しかし運よく第一希望に入学できました。

最初の授業はてびねりで碗を作るのですが、あたふたしてしまい、皆に遅れを取って落ちてしまいました。まだ始まったばかりと心を落ち着かせています。授業外では沢山のクラブがあり活発なのは驚きです。これまで少しかじっていたものと新たなもの2つのクラブに入る予定です。

ワクワクする気持ちと不安もありますが、優しい先輩方に導かれ3年間のカレッジ生活を楽しみたいと思っています。

《音楽文化専攻》

岡本 徹也

実家にある古いオルガン。幼い頃オルガン教室に通いましたがすぐに挫折しました。だからその姿を見ると、今も心が痛みます。そんな私も退職後、クラシックの定期演奏会を聴く機会があり、その後NHKの「クラシックTV」を観るなどして、音楽への興味が徐々に湧いてきました。音符が読めず歌もへたですが、5月の新入生歓迎交流会に向け合唱の練習に励んでいます。30期生の中に音楽の達人さんがたくさんおられます。選曲・楽譜・音源収集・指揮そしてピアノ伴奏と、全てをきばきと進めていかれ、すごいと思います。あみだくじに強く、じゃんけんに弱いクラス代表ですが、3年間皆さんについていきますので、よろしく願います。



南 智子

何のスキルもありませんが、ただ音楽が好きというだけで、あこがれの音文に入ることができました。歌って、演奏して、これからの授業とそしてクラブ活動を思い浮かべながらワクワクが止まりません。パートの仕事しながらの通学ですが、学校行事にも皆さんに迷惑をかけないよう、できるだけ参加していきます。早速の新入生歓迎交流会に向けての練習では、クラスの方々のやる気、行動力にびっくりしました。私も負けずに頑張ります。そして目指すは卒業です！

《園芸専攻》

片山 雅美

退職してから数年、習い事やお友達との交流、旅行など自由な生活を謳歌していましたが、もっと幅広くいろいろなことにチャレンジしてみたいと思うようになりました。シルバーカレッジのことは以前から知っていたので、昨年オープンキャンパスに参加し「ここで挑戦してみよう！」と決めました。家で過ごす時間がますます増えるであろうこれからは「リビングから見える庭(猫の額)を綺麗な花で彩りたい」と園芸を選びました。どこまで理想に近づけるか？ 楽しんで頑張ります。

梶原 正樹

しあわせの村は、自宅から比較的近いことから、長年いろいろな施設を利用してきました。今年3月末で会社を退職し、第二の人生として、しあわせの村の中にある神戸市シルバーカレッジへの入学を希望しました。

自宅では花や野菜などを、素人ながら長年栽培してきましたが、基本的な知識がないため、全くの自己流で行ってきたことから、満足のできる物ができたことは稀でありました。



今後は、植物の基本的な栽培方法を学び、自身の能力を高めることで、納得のできる収穫物ができるように、園芸を専攻しました。今後専攻科目はもとより、各クラブ活動・ボランティア活動への参加を通じて、地域社会になくしてはならない存在となれるよう心がけたいと思っています。

また、そのことが神戸市シルバーカレッジの今後の発展に少しでも寄与できればと思い、明日からの園芸作業に頑張っています。

《食文化専攻》

野上 勢津子

KSCはドキドキでいっぱいです。まず、2月9日食文化入学抽選結果のHPを祈るような気持ちでドキドキしながら見ました。

自分の番号を見つけたときの喜び！そこから2カ月、わくわくしながら待った入学式の日。「何？ここ男性料理教室？」と錯覚するようなクラスの光景。35人中なんと23人が男性。またまたドキドキしました。これから3年間、食べるのが大好きな私の、いろいろな好奇心を満たしてくれそうな食文。



ドキドキしながらクラスの皆さまと楽しんで学びたいと思っています。

北島 英治

古いアルバムを見ていて、幼い頃の写真をみつけました。何としゃもじにむしゃぶりついており、当時から食べるのが好きだったと思われます。会社生活の半分以上が単身赴任で、それなりに料理はできるのですが、マイクロウェーブクッキングが主でした。

今回、きちんと料理を学びたいとの思いから食文化専攻に応募し、幸運にも恵まれ入学できました。グループでの調理実習は和気あいあいと親睦も深まり、次回が楽しみです。これから3年間、「再び学んで 他のために」を念頭に、楽しく能動的に学園生活を送っていきたくと思っています。

シルバーカレッジ 第27期生 卒業式

令和5年3月24日、神戸市シルバーカレッジ27期生の卒業式がカレッジホールで行われました。新型コロナはやっと下火になってきたようで、まもなく感染法上5類に移行されることになっていますが、今年の卒業式も感染拡大防止のため家族、来賓、在校生が参加できない卒業式となりました。今般卒業する第27期生の入学当時は新型コロナが猛威をふるっていた最中で、本格的授業が約半年遅れという異常な環境のもとに学園生活を始めました。本日卒業式を迎えた217人は全員、そんな環境を乗り越えた充実感を胸に、晴れやかな表情で卒業式を迎えました。

【式辞】

神戸市シルバーカレッジ学長 前田 潔

27期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。ここシルバーカレッジに3年前に入学していただいた時は326人でしたが、今日217人の卒業生を送り出すことになりました。

思い起こせば3年前、2019年12月初めに中国武漢市から始まった新型コロナウイルスの感染拡大は、武漢市から帰国した30歳代男性に1月15日に新型コロナウイルスの感染が判明したことからです。そんなわけで、令和2年、2020年と



いう年はのちに歴史に残る大変な年となりました。そして、まさに入学式が行われようとした4月7日には特措法に基づく緊急事態宣言が発出されました。

そして結果的に6カ月入学が遅れてしまい、10月から授業が始まったのですが、開校してからもこの6カ月分の授業の遅れを取り戻すべく補講がありました。皆さんは、そんな大変な時期を過ごされたと思うのですが、それから勉学を積まれて今日晴れてご卒業ということになりました。

私は就任してまだ1年で、3年生の皆さまとは1年間しかお付き合いしていませんが、特に印象に残っているのはグループ学習発表会でした。その時は、全員の発表、パフォーマンスを見させていただきました。あのかの皆さんは生き生きとし、そしてちょっぴり緊張した表情でした。それでも見事な学習の成果、あるいはパフォーマンスを見せていただいて、強く印象に残っており、皆さんの素敵なた姿に感動しました。そこに至るまで先生方からいろいろな的確なご指導をいただき、ありがとうございます。

ました。1年間のグループ学習は、グループでみんなが協力していろいろなことを調べて、作品に形作るといふ、皆さん方にとっても記念になる、記憶に残る経験だったと思います。

この3年間のカレッジでの生活はどうでしたか。楽しかったですか。満足できるものでしたか。記憶に残るものでしたか。私は、楽しい3年間を送っていただけたと思っています。

そしてその3年間ご苦労さまでした。明日からはまた新しい生活が始まるかと思ひます。私どもカレッジ職員は、皆さまがここでいろんな経験を積んだこと、いろんなことを学習したこと、そしてその成果をぜひ明日からの生活に役立てていただきたいと思ひます。周囲の人たちを笑顔にするような、あるいは毎日笑顔で暮らせるような世の中を作るお手伝いをさせていただけたらと思ひます。

ここあわせの村は、高齢の方、障害のある方のための支援の施設として造られたものです。その一角にある当シルバーカレッジもそういう目的の一環として、当カレッジのモットーである「再び学んで 他のために」を実践していきたいと思ひます。世の中にたくさんおられる障害のある方々、苦境にある方々、支援を必要としておられる方々に、皆さまが、できる範囲で手を差し伸べてあげていただいたら、我々としてはありがたいと思ひます。皆さまの将来に光り輝く社会が待っていることを願って、私の式辞としたいと思ひます。



【送辞】

在校生代表 園芸 28 期 長谷川 壽男
 シルバーカレッジ27期生の皆さま、ご卒業おめでとうございます。3年間のカレッジ生活を終えられ、ご卒業の日を迎えられたこと、在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

ご入学される前の3月からはカレッジも休校になってしまい、4月には緊急事態宣言が発出され、カレッジの休校はどんどん延長され、ついには皆さまの入学式も開催されることは叶いませんでした。その後、待望の学園祭も開催されないまま、実質半年でカレッジの種々のイベントを中心となって担う2年生になられ、コロナ禍の中、種々の対策を講じながら翌年には、学園祭を再開していただきました。

また、コロナ禍で各種行動や運営が制約される中、クラブ活動やボランティア活動でもリーダーシップを発揮され、我々28、29期生を引っ張っていただき、多くのことを学ばせていただきました。厚くお礼申し上げます。

今年の学園祭は、在校生とその家族および卒業生に限定されるという計画が進められていますが、今後次第に、従来のように飲食を伴う学園祭、近隣住民にも開かれた学園祭になっていくと思われます。皆さま方におかれましては、卒業後も学園祭をはじめ種々のイベントにぜひともお越しくださることを在校生一同心待ちにいたしております。

最後に卒業生の皆さまが、これからご健康で、そしてカレッジで築かれたご友人との絆を大事にされ、カレッジのモットーである「再び学んで 他のために」を実践していただき、前向きで充実したシニアライフを送られることを心よりお祈り申し上げます。在校生代表の送辞とさせていただきます。



【答辞】

卒業生代表 園芸 27 期 石崎 悦男

本日は私たち27期生のために心のこもった卒業式を挙げていただき、誠にありがとうございます。卒業生一同心よりお礼申しあげます。「歳月人を待たず」とはよく言ったもので、あつという間の3年間でした。

私の学園生活を振り返ってみますと、私は団塊の世代で、退職の時に痛んだ心身のクールダウンが必要と考え、シルバーカレッジを希望しました。

選んだコースは園芸です。その3年間で私に土に触れる喜び、自然の素晴らしさを教えてくれました。それは、サラリーマン生活で歪んだ私の性格も癒やしてくれました。

また、クラブ活動では社交ダンスに入りました。そこでは、必死になってステップを覚え心身共に若返りました。年を取ったのは見た目だけで、心と気持ちはいつまでも年を取らないことに気がつきました。皆さんも若い心で毎日をポジティブに過ごしましょう。

こうして振り返ってみて、教室でもクラブ活動でもいつも周りには仲間がいました。カレッジに入らなければ街で行きずりだった人と、知り合い、友達になれたのです。今この場でも私が答辞で間違えないか、心配してくれる仲間がいます。カレッジでは沢山のことを学びました。美味しい野菜の作り方、花壇の手入れ、庭木の剪定などです。でも私にとって一番の収穫は、同じ時代を生きてきた仲間とここで知り合えたことです。カレッジに入って本当に良かったです。

明日から寂しくなりますが、与謝蕪村の俳句に「春の海 ひねもすのたり のたりかな」とあります。私もこの心持ちで、これからは上を見ず、足るを知って穏やかな日々が過ごせたらと思っています。

最後になりましたが、神戸シルバーカレッジがいつまでもいつまでも、私たちシルバー世代の拠り所として、この緑あふれるしあわせの村で、ますます発展されることを卒業生一同願っております。また、ご出席の皆さま方が毎日を元気に暮らせますことを祈念して答辞とさせていただきます。



歓送交流会

3月1日及び13日～15日に、27期生各コースの歓送交流会がカレッジホールで行われました。

健康福祉/健康ライフコース

29期 長井 信三

3月13日、健康福祉コース最後の卒業生28人は、在校生らの大きな拍手のなか入場し、歓送交流会が始まりました。

始めに澤田事務局長、2年生クラス代表、1年生クラス代表の3人が順に登壇され、送別のあいさつが述べられました。そのそれぞれが異口同音にコロナ禍とともに歩んだ3年間で、そして何事にも不自由な制約を受けることになりましたが、その中でそれぞれが創意工夫により爽りも多く、カレッジのモットーである「再び学んで 他のために」を実践することになったとのあいさつがありました。

また、卒業生4人が登壇し、コロナ禍により半年遅れで始まった学園生活でありましたが、最後の1年間のグループ学習ではシンプルな課題に全員参加で挑み、クラスの仲間を意識して思いやる楽しさでまとめ上げ、人生は出会いと経験であることを思い知らされ、今後の人生の励みにしたいとの発言がありました。

また、卒業生のクラス代表は、あつという間の学園生活においてかけがえのない友達ができ、グループ学習の完成品を作り上げる過程において大切なことを学んだと述べられました。

在校生が準備したアトラクションは、人形劇、太極拳クラブ演舞、そして手話ソングのパフォーマンスと続き、最後に2年生、1年生並びに会場に臨席していた全員の合唱と手話ソングの演技で「365日の紙飛行機」を歌い上げ和やかな中にも、感極まる歓送会を終えることができました。



国際交流・協力コース

29期 伊賀 元俊

3月13日カレッジホールにて国際27期生の歓送交流会が実施されました。

3年生が入場される中、「高校3年生」の替え歌、「カレッジ3年生」を全員で歌い、お出迎えし、歌詞を大変愉快なものに変えてあり、早くも盛り上がりました。

実行委員長がごあいさつされ、その後は卒業される3年生がグループ学習の裏話をされるという、卒業生が主役の、素敵な企画が続きます。グループ学習の中で苦勞されたこと、楽しかったこと、私たち在校生にとって参考になるお話ばかりでした。

そして、最後の企画は、全学年代表が参加した「にわかバン

ド」の演奏に合わせて、参加者全員で大きな声で歌いました。時間はアツという間に過ぎ、1・2年生が作るアーチの下をくぐられ、3年生は退場されました。心のコもった企画がたくさんあり、とても暖かい会となりました。



生活環境コース

29期 増本 千代四

3月14日、生活環境コース27期生歓送交流会がカレッジホールで行われました。

28期生と29期生が拍手で出迎える中、27期生が会場に入場し、観覧席中央に着席しました。

司会者の開会宣言の後、28期生代表から「グループ発表に多くの感動をいただきました。少子高齢化が進む中、今後の活躍に期待します」とあいさつがありました。

アトラクションの1番目はフォークソングクラブメンバーによる、「風」、「さらば青春」、「島人の宝」の演奏・歌唱でした。「島人の宝」は、沖縄の自然の保全を訴えた歌で生活環境コースに関連深いと紹介がありました。2番目は各学年が前に出て、クラブメンバーの演奏・歌唱をバックに、「青春時代」（28期生）、「なごり雪」（29期生）、「心の旅」（27期生）を歌いました。若かりし頃を思い出した人も多かったのではないのでしょうか。3番目は「太極拳」で、演技に合わせて観覧席の参加者も体を動かし、リフレッシュしていました。最後にビンゴゲームを全員で行い、表示される番号に一喜一憂しました。

29期生代表から「コロナ禍、ウクライナ戦争、トルコ・シリア地震など苦難な状況が続く中、学園のモットー『再び学んで他のために』を自分たちも引継ぎます。卒業生の皆さんが社会貢献に活躍されることを期待します」とあいさつがありました。最後に27期生代表が、交流会開催に対するお礼と学園祭での丹波篠山の黒豆販売の再開、グループ学習の心構えなどについてユーモアを交えて話されました。

終始和やかな雰囲気で行われ、楽しい時間を過ごしました。



美術・工芸専攻

29期 中川 博司

焼き物の形状や象嵌、釉薬に工夫がなされた卒業制作品の展示を前に、堂々と発表されたグループ学習発表会をうけて、歓送交流会がカレッジホールで催されました。開会が宣せられ、オールディーズクラブの懐かしい歌声でオープニングが告げられました。思い出スライドを見ながら、3年間の楽しかった学園生活に思いを巡らせました。卒業生お一人ごとのメッセージ紹介では、皆さんの自画像とともに「充実していた」「楽しかった」「創作の喜びを味わえた」「新しい体験だった」「よき仲間ができた」などの感想に加えて、「事務局に本当にお世話になった」「ありがたかった」との感謝も表わされました。贈る言葉・記念品贈呈ではご指導の窯元の市野先生作品が卒業記念品として贈られました。そして、フォークソングクラブがリクエストのあった「心の旅」を歌い上げクロージングを務めました。卒業後も、ご健康で輝き続けられることを祈念いたします。



音楽文化専攻

29期 上藤 敦子

3月1日午前中に行われた卒業演奏会の余韻を残したまま、音文27期生27人の「歓送交流会」が開催されました。学年の締めくくりとして1年間の成果を学年ごとに合唱や合奏で披露しました。そして、結びには斉田先生・松村先生・前田先生による歌唱パフォーマンスが披露され心を奪われました。1年生は、黒い衣装に黄色のストールで手話を交えたり、イタリア語で歌ったりと力が入りました。2年生は、この日の演奏会・交流会の準備を万全に整えようとクラス全員の方が力を出し切った感じを覚え、少し張り切り過ぎかもしれないと振り返っていました。

そして、3年生の合奏は皆さん楽しそうで、爽やかな笑顔が印象深く、合唱では言葉を大切に歌声のハーモニーに癒されました。3年間の頑張りや楽しさ、クラスの仲良しさが伝わる素晴らしい演奏でした。音楽を通して築かれた絆を感じた1日でした。



園芸専攻

29期 佃 長次

3月15日にカレッジホールにおいて園芸27期生歓送交流会が実施されました。28期生代表より開会挨拶があり、来賓代表の金地先生より祝辞をいただきました。そのあと27期生の「カレッジの思い出」をスクリーンに映し、授業風景や農園での野菜栽培、校外学習などの様子を美しい写真と音楽で紹介されました。約15分の映像は、在校生も含めた会場の全員が感動した素晴らしい思い出アルバムでした。アトラクションでは、①フォークソングクラブ ②オカリナチーム ③フルートクラブ・フルーツパフェの3ステージがあり、懐かしい素敵な音楽をご披露していただきました。

卒業生代表から在校生に贈る言葉があり、新型コロナの影響で入学式が中止になり9月まで休学だったことや、暑い夏での農園作業の苦労などがあったものの、楽しく充実したカレッジ生活を送ることができたとお言葉がありました。最後に29期生代表より閉会挨拶があり、卒業生と来賓による記念写真撮影を行いました。卒業生と来賓への記念品には、神出自然教育園から贈呈されたサイネリアの鉢植えが用意され、園芸専攻にふさわしい華やかな花のプレゼントとなりました。



食文化専攻

29期 野中 信一

3月15日に開催された卒業生歓送交流会は、27期生の3年間の学園生活の思いや、卒業生に楽しんでもらって送り出したいという在校生の気持ちが伝わる、たいへん感慨深いものでした。

映像を使つての3年生代表によるプレゼンの中で、グループ学習を終えての各グループの感想が紹介されました。3グループの感想は、「難しいテーマに取り組んで達成感をみんなで共有できた」、「メンバーには成功体験として残った」、「チームワークよく、楽しく学習できた」の言葉で、3学年目の充実した学園生活を物語るものでした。

2年生有志によるアトラクションでは、ピンキーとキラーズの「恋の季節」の替え歌「カレッジの季節」をバックにフラダンスが披露されました。毎授業の後に、レッスンビデオを見ながら皆で熱心に練習してきたというエピソードは、卒業生を思う気持ちとチームワークの良さが伝わるものでした。

会の締めくくりは、「卒業おめでとうございます。そして、まだまだ未来へ！」の贈る言葉と、食文伝統の手作りのフルーツケーキの贈呈、そして在校生による祝福のアーチをくぐつての新しい旅への送り出しでした。



KSC オールディーズクラブ

“あの懐かしい青春時代に帰ってみませんか”

音文 29 期 前田 眞一

オールディーズは主に 1950 年代半ばから 1970 年代にかけて、アメリカ・イギリスなどから日本に入ってきてヒットしたポピュラー音楽のことです。私たちはエルビス・プレスリーのラブミーテンダー、ビートルズのオブラディオブラダ、カーペンターズのイエスタデイワンスモアなど、誰もが聞いたことのある曲ばかりを取り上げて演奏します。

オールディーズクラブでは、全クラブ員で決めた年間練習曲を基に練習用の CD を作って皆さんに配布します。週に 1 回程度音楽室などで例会を開き、その CD を聞きながら、英語でオールディーズを練習します。そして練習の成果を学園祭や各コース・専攻の交流会への出演など、年に数回のイベントで発表しています。

オールディーズは好きだけど英語はあまり得意ではないというクラブ員も楽しく歌っています。例会でもステージでも原則として歌詞を見て歌うので、CD をよく聞き歌詞をよく読んで、自宅でも練習すれば十分歌えます。

オールディーズクラブのモットーは、みんなで楽しく歌うということです。発表に向け、ああでもないこうでもない、意見を



出し合いながら、練習し歌唱のレベルを上げていくのはたいへん楽しいことです。さらに、ステージで全員が自分のベスト

を尽くし、やり遂げた後の達成感、何物にも変えがたく、忘れられないものになります。

また毎年夏にはクラブ内の発表の場として、ピアノ伴奏によりソロでオールディーズを歌うというサマーフェスティバルを開催しています。

オールディーズを歌うと、青春時代の記憶が鮮やかによみがえってきて心が躍りますし、懐かしいと感じる気持ちは明日への活力にもなっています。

例会の日いつでも見学していただけます。1 年生の皆さんはもちろん、2・3 年生の方もどうぞご入会ください。お待ちしております。

KSC ダーツクラブ

“生涯スポーツ【ダーツ】を始めませんか”

食文 29 期 高木 基實

ダーツは 14 世紀頃のイギリス百年戦争において、兵士たちが余興でワイン樽めがけて矢(ダーツ)を放つようになったのが起源とされています。その後時を経て、矢(ダーツ)を的(ボード)に当てて、その正確性とスキルを競うというシンプルでありながら、戦略性と精神力を求められる知的なスポーツとして進化し高く評価されてきました。

体力をあまり必要としないので、年齢や性別に関係なく、誰でも生涯ダーツを楽しむことができます。また、ダーツ独特の、ゲーム性(多種類)・数字の計算(足し算・引き算)・戦略性などが、認知症予防に効果があるとされています。

KSC ダーツクラブは、シルバーカレッジにおいて 20 年以上活動している、歴史と伝統のあるクラブです。OB の方は現在も兵庫ダーツ協会などで大変なご活躍をされています。

当クラブは日本ダーツ協会公認指導員からの丁寧な指導が受けられます。マナー指導は厳しいですが、マナーを守れば初心者から腕に自信のある方まで、誰でも楽しくプレイできます。そして、月 4 回の例会と数回の各種競技会を計画しますので、これらの活動を通じて競技力向上が図られ、戦略性も体得できます。ですが、これを修得する過程でダーツの奥深さ、つまり確かな技術と精神の安定が極めて重要であることに気づかれます。それを自分なりに克服し、着実にステップアップしたことを実感した時の感動は格別なものです。そして、これらのことを通じて、何よりも良き生涯の仲間ができます。

カレッジホールで例会をしていますので、まずは体験を試してみてください。そして、ダーツ好きの仲間と一緒に仲良く元気よく切磋琢磨して楽しみましょう。皆さまのご見学・ご入会をクラブ員一同お待ちしております。



KSC オカリナチーム

国際 28 期 大和 一朗

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。最初に、オカリナを紹介します。とても小さな楽器で、柔らかくそして優しい音色を持っています。心が癒される音色と音量なので、みんなから愛される楽器です。オカリナの発祥の地は北イタリアで、19 世紀後半にドナーチという菓子職人が、それまでであった土笛に初めてドレミファ〜を導入し、ガチョウの子供を意味する“オカリーナ”という命名をしました。

私はシルバーカレッジに入学し、初めてオカリナを体験しました。今思うと、ほんとうにオカリナに出会ってよかったと思います。人生の中で、オカリナという心を癒してくれる友達ができたからです。小さな楽器なので、旅行にも持っていきます。そして、吹き口に息を吹き込めばとりあえずは音が鳴るので、初心者でも簡単に始めることができます。オカリナの魅力にとりつかれました。そんな楽器を自分で演奏できるのはとても素敵なことです。

さて、オカリナチームは、創設 5 年目を迎えます。コロナの影響で、ボランティア活動は自粛していましたが、昨年度は、須磨の福祉施設等へ訪問演奏に出向きました。訪問演奏は久しぶりで、初めて参加するチーム員が大半でしたが、ご来場の皆さまにはたいへん喜んでいただきました。

チーム員の多くは、初心者で“土笛の優しい音色の魅力”にひかれて入会される方が大半です。初めてオカリナを手にした方は、最初は、小指や薬指の上げ下げに四苦八苦ですが、3 カ月も経つとスムーズに指が動くようになります。

チームの特徴ですが、初心者の方も安心して、入会してもらえるよう、練習日以外にも、初心者講習会(2 回/月×3 カ月)を準備しています。この講習は、オカリナの基礎習得の近道です。オカリナを徐々に吹けることに喜びを感じながらマイペースで練習する人が多数です。こんな土笛と一生のお友達になれます。歓送迎会やジョイラックデイなどの学校行事に積極的に参加して、スキルを磨いています。演奏曲は、唱歌、歌謡曲などで、二重奏にも取り組んでいます。特にジブリ作品の曲はオカリナに向いている曲がたくさんあります。



学内のアトラクションに参加し、皆さまから喜ばれています。演奏できる曲ができれば、ぜひ誰かに聴かせてあげてください。

KSC ハーモニカグループ

国際 29 期 水谷 忠清

--KSC ハーモニカグループの活動--

私たちハーモニカグループは、カレッジ第 14,15 期生の先輩 3 人の方々によって、今から 15 年前に創部されました。入学式での新入会員勧誘活動の中庭パフォーマンスでは、「バラが咲いた」「早春賦」「故郷」と楽しい曲から哀愁のある曲まで演奏しました。

現在部員は 3 年生 1 人、2 年生 7 人で、毎週放課後に和気あいあいと楽しく練習しています。

ハーモニカはおもちゃのように小さい楽器ですが、子供から大人まで自由に簡単に演奏が楽しめる魔法のような楽器です。

6 月にあるボランティア活動報告会では、「若者たち」「ドナドナ」「銀色の道」「六甲おろし」の 4 曲を演奏する予定です。

趣味を生かしたボランティア活動で皆様の人生を豊かに楽しくあるべく、我々の活動が意義あることを望みたいと思います。



グループわ だより

誰でも楽しめる「卓球バレー」で心のバリアフリーを！

3月11日、ユニバーサルフェスタがしあわせの村内体育館で開催されました。グループわ は、「卓球バレー」を紹介しました。いすに座ったままゲームができます。卓球台を使い、ネットを挟んで1チーム6人がいすに座って音がするピン球を転がし、相手コートへ3打以内で返す、というゲームです。来場者は161人でした。始終なごやかな雰囲気の中、子どもから高齢者、車いす、視覚障がいの方も一緒にプレーを楽しみました。



KSC30 期生入学式のお手伝いをしました

4月10日、神戸市シルバーカレッジ第30期生入学式が執り行われ、グループわ では例年通り、入学式当日と翌日に駐車場の誘導と、各クラス単位に集合写真の撮影のお手伝いをしました。

お申込みされた写真は、5月19日より2階のグループわ 事務所にしてお渡しできます。

30期生の皆さま、グループわ とは学内イベント、地域交流会で一緒にさせていただく機会があります。これから3年間、よろしくお祈りします。



清水 典子先生のジョイフルクッキング

ささみ巻き 塩麹味



《材料》4人分

ささみ	3本
にんじん	60g
三度豆	6本
ミニトマト	4個
サラダ菜	4枚

《調味料》

塩麹	大さじ	2/3
オリーブ油	大さじ	2

《作り方》

1. ささみはスジを取り、中央に包丁を入れて左右に開いて厚みを半分にし、ラップに挟んでたたいてのばす。
2. のばしたささみの片面に塩麹を塗り、しばらく置く。
3. にんじんはささみの幅の拍子切りにし、茹でておく。三度豆も色よく茹でておく。
4. 「2」の上に「3」のをせ、鳴門状に巻く。
5. フライパンにオリーブ油を入れ、中火で「4」をころがしながら焼き色をつけ、焼き色がいたら弱火にして火を通す。
6. 「5」を食べやすく切り、ミニトマト・サラダ菜を添える。

《先生のコメント》

- ・麹は焦げやすいので、焼くときの火加減に注意。
- ・ささみは、高たんぱくで低脂質。塩麹はささみの旨味をアップさせ、腸内環境を整える働きがあります。見ても、食べても、身体にもおいしい「塩麹味のささみ巻き」です。

(食文 29期 野中 信一)

《俳句クラブ》

四季の俳句

隧道を抜くるジープや花の昼	谷口 裕
鍬打つ手休め眺むる初蛙	戸田 文章
新生児欠伸おおらか春日受け	佐野 貴代美
楽茶碗濃茶を練りておぼろ月	山田 浩子
朝探れのいかなご求め並ぶ列	貞苅 茂
春きたりみなと神戸にクルーズ船	寺尾 隆志
春埃驢馬の足音響くなり	奥山 繁男
清流に誘われ咲くや座禅草	千足 恵美子
雲去りて卒業式の素顔かな	村上 泰民
旗揚げの挨拶状や風光る	中井 芳樹
青き踏むブルーシートに靴そろへ	大高 松男



《川柳くらぶ》

自由句

縁あつて彼と歩んで50年	北川 都
縁側で猫と昼寝が待ち遠し	北川 都
恋心切手一つで何百里	名定 博
縁日に壺焼き食べて腹こわし	名定 博
郵便ごっこ葉っぱの切手風運ぶ	渡辺 かおる
春の鬱 風船ガムを膨らます	渡辺 かおる
俺のアド教えてくれのメールくる	佐藤 眞巧
少子化の改善策は縁結び	佐藤 眞巧
川柳が繋ぐ縁(えにし)の人と人	千足 千
二日酔い覚ますサウナで湯にあたり	千足 千



《応募作品》

俳句

雛の家今年は孫を手伝ひし
 冴え返る日々も少なくなりけり

諫山 一彦 (美工29期)
 微睡みの、車窓の村は、花盛り
 岸本 修治 (国際28期)

短歌

三十年ぶりのループル
 中庭にきらりガラスのピラミッド立ち
 ピカピカの三十期生入学し
 新しいびぎこのカレッジに
 マスクつけ体温測り教室へ習慣となる三年目の春
 寺尾 隆志 (美工28期)

川柳

三十期昔の上司起立礼
 学友は歳は違えど皆昭和
 鯉のぼり黄砂食べ過ぎ下痢してる

寺尾 隆志 (美工28期)

俳句・川柳募集中!

投稿はこちらから



施設利用委員会からのお知らせ “RBC”ってご存じですか？

『Room Booking Coordinate committee』（学習室の予約を調整する委員会）の頭文字をとった略語です。

神戸市シルバーカレッジ内の学習室などを、授業やその他学校行事に使用されていない時間帯に、有効に利用しようという趣旨から生まれたものです。このシステムを管理しているのが「神戸市シルバーカレッジ施設利用委員会(RBC)」です。この委員会は、ボランティアセンター、クラブ協議会、その他から選出された委員で運営されています。

毎月、翌々月の施設利用希望の申込期間が、施設利用申込日程により公表されます。

各クラブはこの期間内に、登録された担当者が、使用したい希望日や学習室などを Web 経由で申込をします。そして翌月初めにコンピュータ上で抽選をし、利用計画が決まります。

シルバーカレッジ内には 80 近いクラブ等の団体があり、主に校外等で活動する団体を除いても 50 以上の団体が学習室等の施設を必要としています。このため、それぞれの団体が、限られた施設をできるだけ公平に利用できるようにする必要があります。

委員会では、利用希望の申込状況や抽選結果を確認して、希望しているのに一日も活動日が確保できない団体がないよう、なおかつ公平性が保たれるよう、必要な調整をします。このため場合によっては、すべてのご希望には添えないことがあります。

各団体におきましては、この趣旨をご理解いただき、次の注意事項を守って、学生みんなが明るく、楽しいクラブ活動ができるようご協力をお願いいたします。

※利用上の注意事項

- 1 校内の施設は限りあるものですので、一つの団体が独占することなくできるだけ公平に使用しましょう。
- 2 利用申込をしていたが、何らかの事情で使用することがなくなった場合は、できるだけ早く利用取り消しを行いましょう。
- 3 各団体には RBC 担当を決めていただいております。担当者が変わった場合は速やかに委員会に届け出をお願いします。

届け先【https://ksc-sofu.net/rbc/rbc_renraku/】

- 4 2023 年度の委員会の役員は以下のとおりです。

代 表	長井 信三 (健康 29 期)
副代表・総務担当	辻上 質吉 (生環 29 期)
ク ラ 協 担 当	隅田 剛弘 (生環 29 期)
ボ ラ セ ン 担 当	吉本 慎一 (国際 29 期)
シ ス テ ム 担 当	辻堂 仁規 (美工 29 期)
シ ス テ ム 担 当	関 信夫 (生環 28 期)

ケナフで紙漉き

生環 29 期 木村 泉

2 月 27 日にカレッジで、ケナフの茎からとったパルプで紙漉きをし、はがきを作りました。飾りに使う押し花は自宅に咲いた花や、散歩の途中の道端で見つけた小さな草たちです。

春先は一斉にかわいい花が咲きだします。オオイヌノフグリの青、ヒメオドリコソウのピンク、どれも押し花のいい材料になります。花壇では邪魔者扱いのカタバチもよく見るとハートの形の葉っぱで、並べ方を工夫すると素敵な作品ができあがります。ケナフを種から育て、押し花作りも楽しみ、季節の移り変わりを楽しみながら活動しています。

押し花の配置によって、そのまま額に入れて飾りとして使用したり、はがきとして使用したり、大きさを変えて栞として使用したりといういろいろ変化が楽しめます。

その、ケナフは実に有益な植物です。種は大きさも形も朝顔の種に似ています。この種を春に蒔くと夏には 3 m ぐらいに成長します。成長が速く収穫できる繊維も多いため、木材パルプの代替資源として 2000 年頃から注目を浴びるようになりました。現在は、「木材使用量を低減し、森林伐採が防止でき、環境にいい」と評価されています。このため日本各地の小中学校で総合的な学習の時間に、環境学習の一環として栽培されています。また、ケナフ製の名刺やナプキンが使用されるようにもなりました。

成長すると葉は二酸化炭素をたくさん吸収し、地球環境にもやさしい存在です。オクラに似た黄色い花は染物に使います。夏の青空の下、黄色い花が何百も咲いている様子は実に素晴らしいものです。この茎の皮からはパルプが取れます。これが紙漉きの原料になるのです。



事務局だより

◆事務局職員の人事異動

	〈退任・転任〉	〈後任〉
事務局長	澤田 靖	黒田 徹
総務リーダー	福井 宏行	大窪 昌子
教務リーダー	三橋 美貴子	高松 秀夫
	(3月31日付)	(4月1日付)

◆事務局職員就任のあいさつ

《黒田 徹》

事務局長として着任しました黒田です。前職は垂水区長でした。シルバーカレッジもコロナの影響が大きかったようですが、ようやく以前のような活動をしていこうという情勢になってきたことを嬉しく感じています。学生の皆さまのカレッジライフが充実したものになるよう、微力ながら努めてまいります。

《大窪 昌子》

大窪昌子と申します。20数年前に交流推進係長でお世話になって以来のしあわせの村です。わからないことばかりですので新鮮な気持ちでがんばります。どうぞよろしくお願いいたします。

《高松 秀夫》

4月より着任しました教務リーダーの高松です。しあわせの村では、長い間お世話になっておりますが、シルバーカレッジは、全くの初めてです。担当の仕事もそうですが、カレッジ

の学生さんからも様々なことを学びたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

《川崎 圭子》

4月に着任いたしました健康ライフコースのコーディネーター川崎です。皆さまが多くの方と出会い、学び、かけがえのない時間を過ごすことができますよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

《天羽 章司》

4月1日付で国際交流・協カコースのコーディネーターとして着任しました天羽です。複雑で不安定にも思える世界情勢の中、私たち一人ひとりが国際交流や国際協力の視点をいかに持つか、皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

《棚橋 徹》

シルバーカレッジ事務局のスポーツ授業担当となりました棚橋徹と申します。カレッジからの素敵な眺望や村内の四季感の中で、皆さまと笑顔で楽しい日々を送れるよう、頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

《高倉 裕加》

4月より生活環境コースの担当になりました高倉裕加と申します。皆さまのカレッジライフがより豊かで充実したものとなりますよう、お手伝いさせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

図書室だより

30期生の皆さま、ご入学おめでとうございます。これからの学園生活が楽しく充実したものになりますように。新型コロナウイルスも5月8日より5類に移行しましたが、各自でできる防止対策をお願いします。さて、図書室では幅広い分野の書籍をとりそろえていますので、きっと満足されるものと思います。新入生の皆さま、ぜひお立ち寄りください。

5月22日(月)～25日(木)までは閉館となりますので、閉館期間中は事務局へ返却願います。

<新着図書>

『散歩で見つける薬草図鑑 見分け方・使い方がよくわかる』

著者-指田 豊 出版社-家の光協会
十進分類法による内容表記(以下 NDC) 499 薬学
『大陸はどのように動くのか 過去と将来の大陸移動(知りたい!サイエンス)』

著者-吉田 晶樹 出版社-技術評論社
NDC-455 地質学
『中国パンダ外交史(講談社選書メチエ)』

著者-家永 真幸 出版社-講談社
NDC-319 外交・国際問題
『八本目の槍』

著者-今村 翔悟 出版社-新潮社
NDC-913 小説・物語本文

編集後記

清々しい若葉の季節となりましたが、新入生の皆さんは学園生活にも徐々に馴染まれてきたと思います。情報誌編集委員会は情報誌「爽風」を4月特別号に続き、奇数月に年6回発行しています。学園生活をより豊かに過ごしていただくため、厳選した情報を分かりやすく冊子にまとめています。

5月号は主に3月・4月の卒業式や入学式を中心に記

事を構成し、各委員が事務局をはじめ寄稿者や関係者の皆さまのご協力をいただき、制作・発行しています。今年は29期生が中心となり、28期生の助言をいただき、また30期生と共に、一年間「爽風」を発行してまいります。皆さまにより良い記事をお届けするため努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。

情報誌編集委員

第27期生 歓送交流会

2023年3月1日
および13～15日



健康福祉/健康ライフコース



国際交流・協力コース



生活環境コース



美術工芸専攻



音楽文化専攻



園芸専攻



食文化専攻

第27期生 卒業式

2023年3月24日



卒業記念品贈呈



校歌斉唱



各クラス卒業証書授与

第30期生 入学式

2023年4月10日



入学式受付風景



クラブ勧誘ポスター掲示風景



音文28期生校歌四部合唱



KSC 男声合唱団



手話ソング



KSC マジック同好会



KSC 太極拳クラブ

クラブ勧誘パフォーマンス